

No.16

某映画会社が社運を賭け超大作映画を作る事になった。若手の議員である主人公が政治の闇を暴いて行くという社会派の内容だ。役者は人気の高い実力派の名俳優を多数そろえた。劇伴は世界的に活躍する作曲家によるものだ。スタジオには国会議事堂を模したセットまで組まれ、映画の成功は約束されたかのように思えた。

ところが撮影中にスタッフの一人がタバコを消し忘れたのがいけなかった。タバコの火がセットに燃え移り火災が発生してしまったのだ。慌てたスタッフがすぐに消防署に電話をかけた。

「大変なんです！」「どうされました？」「こ、国会議事堂が燃えているんです！」

電話はイタズラだと思われすぐに切られた。

---

No.17

ここはタイムマシン研究所。

先ほどまでタイムマシンの実験が行われていたのだが、事故が発生してしまった。誤って助手を四十五億年前に転送してしまったのだ。タイムマシンはまだ試作機で片道しか使えない。そのためこのままでは助手が現代に帰還できない事になる。

博士が大汗をかき焦っていると、突如タイムマシンが反応を示した。数秒たち、まぶしい光と共に四十五億年前に送られたはずの助手が姿を表す。助手の帰還に喜ぶ博士。だが同時に疑問も生まれた。

「君は文明も何もないところからどうやって戻って来たのかね」

「そりゃ神様に頼みましたよ。四十五億年前と言えば、ちょうど彼らが地球を作っていた頃ですから」

---

No.18

鬼が島の鬼たちはぴりぴりと殺気だっていた。自分たちを倒しに桃太郎という人間の青年がやってくるというのだ。なんでも桃太郎は人間の中でもかなりのツワモノなのだという。いくら鬼である自分たちが強いとは言え用心せねばならない。

そこで鬼たちは暗殺者を雇い、桃太郎を襲撃する事に決めた。「よろしく頼んだぞ」

依頼を受けた暗殺者たちが送り出されて行く。鬼たちは暗殺者たちの成功を祈った。ところがそれからいつまでたっても暗殺者たちが戻ってこない。まさか暗殺に失敗したのか。そこに報告が入る。

「大変です！ 暗殺に向かったイヌ、サル、キジの三匹、桃太郎にきびだんごで買収され寝返った模様です！」